

平成28年度
多摩区区民意識アンケート調査
報告書

平成29年3月

 川崎市多摩区

目 次

I. 調査概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の方法	3
3 主要な調査項目	3
4 回収状況	3
5 図表の見方	3
6 数の表現	4
7 標本誤差	4
II. 調査回答者の属性	5
1 問23 性別	7
2 問24 年齢	7
3 問25 職業	7
4 問25-1 業種・職務	8
5 問26 通勤先／通学先	8
6 問27 居住地	9
7 問28 住居形態	9
8 問29 世帯人数	10
9 問29 同居家族	10
10 問30 子どもの年代	11
11 問31 最寄り駅までの交通手段	11
12 問32 居住年数	11
13 問33 区の知らせや情報の入手手段	12
III. 調査結果	13
1 多摩区の長所・魅力	15
2 住みやすさ	17
3 定住意向	19
4 区外転居意向の理由	21
5 多摩区に対する愛着や誇り	23
6 多摩区の生活環境	29
7 市政についてよくやっていると思うもの	42
8 市政について今後特に力を入れてほしいもの	44
9 市の施策や事業の総合満足度	46
10 地域活動の状況	48

1 1	行っている地域活動の分野	51
1 2	地域活動を行っていない理由	53
1 3	地域活動を始めるために必要な機会や場	55
1 4	地域活動への取り組み意向	57
1 5	地域活動への関心分野	59
1 6	町内会・自治会への加入状況	61
1 7	町内会・自治会に加入していない理由	64
1 8	区民と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うもの	66
1 9	多摩区の見どころ	68
2 0	「ピクニックタウン多摩区」の認知状況	70
2 1	「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」に向けて必要な取組	72
2 2	「地域包括ケアシステム」の認知状況	74
2 3	「地域包括ケアシステム」で取り組むべき分野	76
2 4	近所付き合いの程度	79
2 5	近所に手助けを頼める人の有無	81
2 6	地域の健康づくり活動への参加経験と参加意向	83
2 7	「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向	86
2 8	知っている3大学関連イベント	89
2 9	区役所が力をいれて取り組むべき施策	92
IV.	調査票	99

I. 調査概要

I. 調査概要

1. 調査の目的

区民が日頃多摩区について感じていることや、区民の地域活動に関する意識、多摩区役所が推進する主な取組に関する意識、さらには、区役所が力を入れて取り組むべき施策などを調査することで、多摩区役所が区民に身近な総合行政機関として、地域の問題解決や、地域の魅力を活かした取組を効果的に推進していくための参考とすることを目的とした。

2. 調査の方法

- (1) 調査の対象者 …… 多摩区在住の18歳以上の男女個人（外国人を含む）
- (2) 標本数 …… 2,000 サンプル
- (3) 標本抽出方法 …… 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- (4) 調査方法 …… 郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (5) 調査期間 …… 平成28年10月15日（土）～11月21日（月）
- (6) 調査委託機関 …… 株式会社 総合企画

3. 主要な調査項目

- (1) 生活環境の満足度について
- (2) 市政への参加、地域でのボランティア活動などについて
- (3) 区役所が推進する主な取組について

4. 回収状況

- (1) 標本数 : 2,000 票
- (2) 無効回答数 : 2 票
- (3) 有効回答数 : 817 票
- (4) 有効回収率 : 40.9%

5. 図表の見方

- (1) 表中のnは回答者総数のことである。いくつでも○（複数回答）などの場合は回答が2つ以上ありうる。したがって、合計比は100%を超える。
- (2) 百分比はNを100%として算出し、図表中では原則として単純集計については小数第2位を四捨五入して第1位まで、その他のクロス集計については小数第1位を四捨五入して整数としたものを使用した。このため、百分比の合計が100%に満たない、又は上回る場合がある。

6. 数の表現

N = 調査対象者数

n = 各質問ごとの回答者数

7. 標本誤差

(1) 各項目のはじめに質問項目と共に示してある単純集計の n は、回答者数のことである。質問に対する回答は、1つの場合や2つ以上、いくつでもよい場合(複数回答)などがあるが、複数回答の場合、合計比は100%を超えることがある。

(2) 百分比は n を100%として算出し、本文及び図表中では原則として小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示した(経年推移では、小数第1位を四捨五入して整数で表示)。図表中の「0」または「0.0」は四捨五入の結果を示し、「-」は皆無の結果を示している。このため、百分比の合計が100%に満たない、あるいは上回る場合がある。また、2つ以上の選択肢の合計値が、グラフと文中との間で誤差が生じる場合もある。

(3) 標本誤差

この調査の標本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下表のとおりである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基数(n)、及び②回答の比率(P)によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差(単純無作為抽出の場合)
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数(サンプル数)
 P = 回答の比率

40.9%

回答の比率 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
817	±2.1	±2.8	±3.2	±3.4	±3.5
674	±2.2	±3.0	±3.4	±3.6	±3.7
646	±2.3	±3.1	±3.6	±3.8	±3.9
520	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4
481	±2.8	±3.7	±4.2	±4.5	±4.6
281	±3.3	±4.3	±5.0	±5.3	±5.4
158	±3.9	±5.1	±5.9	±6.3	±6.4
86	±5.9	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8

注) 1. 上表は $\frac{N - n}{N - 1} \div 1$ として算出した。

2. この表は、ある設問の回答者数が817人でありその設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±3.4%以内ということを表わす。

Ⅱ. 調査回答者の属性

Ⅲ. 調査結果

IV. 調查票
